

中学校の運動部活動は、こんなふうに行われています！

～平成19年度中学校運動部活動アンケート結果から～

長野県教育委員会事務局スポーツ課



調査時期 平成19年6月～7月
対象学校 県内公立中学校193校
調査方法 質問紙法

1 どのくらいの中学生が運動部活動で活動しているの？

40,857名〔男子 25,076名 女子 15,781名〕が、活動しています。これは県下の中学生の約64%です。男女別の加入率は男子が約77%、女子が約51%です。加入率は、昨年度とほぼ同じです。

2 複数の入部は認められるの？

複数の入部は、認めていない学校が多く約76%になります。冬季スポーツ(スキー・スケート)との複数入部や大会参加のために暫定的に複数入部を認めている学校もあります。

3 仮入部はみんなあるの？

仮入部は、約95%の学校で実施し、実際に活動を体験した上で、正式に入部することになっています。実施していない学校は、小規模の学校で、わずかな部数しかない学校がほとんどです。

4 活動計画は誰が立案しているの？

顧問の先生の考えだけで決定している学校が約25%、生徒の希望を聞きながら共に立案している学校が約18%あります。

5 どのくらい練習しているの？

【シーズン中・・・中体連の本大会が盛んな主に一学期】

朝・・・	～30分	約55%
	～45分	約37%
放課後・・・	～1時間30分	約18%
	～2時間	約31%
	～2時間30分	約32%
	～3時間	約20%



【シーズンオフ・・・中体連の新人大会のある二学期から冬の練習】

朝・・・	～30分	約58%
	～45分	約32%
放課後・・・	～30分	約71%
	～1時間	約16%

練習なし 約 8%

- ・放課後の練習時間は、シーズン中とシーズンオフで大きな差があります。
- ・朝の練習を実施していない学校は、4校あります。

6 大会前の練習時間は、どうしているの？

大会前(一ヶ月前～2週間前が多い)は、各学校で子どもたちが十分に活動できるような工夫をしています。

多く見られる工夫として、

時間の延長を認める。

学校一斉の休日も練習可能とする。

土曜日・日曜日も練習可能とする。

5時間授業を増やす。



などがあります。

学校では、学校長の許可を得て全職員の共通理解のもと進めたり、保護者へも通知したりし、大会前の活動に理解を得て進めています。また生徒の健康面や帰宅時の安全面(下校時刻の厳守など)には、配慮がされています。

7 休日(放課後 ノー部活デー)の実態は？

学校一斉に休日を設けている学校は約71%あり、また学校一斉ではないが、休日を各部で設けている学校は、約9%あります。約80%の学校では、休日を設定していることとなります。

休日は、月曜日・水曜日が多くなっています。

8 週5日制になったけど、部活動は？

【土曜日】

年間を通じて計画的に実施する 約55%(昨年56%)

大会前のみ実施する 約38%(昨年37%)

【日曜日】

年間を通じて計画的に実施する 約43%(昨年42%)

大会前のみ実施する 約35%(昨年37%)

土曜日・日曜日については、年間を通じて計画的に実施をしている学校・大会前のみ実施を認めている学校が多数を占めています。ここ数年、年間を通じて計画的に実施する学校が増えてきています。

また、土曜日に実施した場合は、日曜日は休みにするなど、どちらか一日は休みにする、実施しても半日のみとしている状況が見られます。

実施にあたっては、保護者へ通知し理解を求めたり、地域の行事や家庭の時間を優先したり、郡市で申し合わせをつくる等配慮が見られます。

9 学校の運動部活動以外でも活動しているところは？

運動部活動終了後や日曜祝日などに地域のスポーツクラブ(社会体育)にも所属して活動している部員のいる部数は、534部(125の学校 約65%の学校)あります。(昨年度 521部 115の学校 約60%の学校)そのうち、学校の運動部顧問の先生だけに指導されている部は約20%、学校の顧問と地

域の指導者に指導されている部は約60%、地域の指導者だけに指導されている部は約20%になります。

10 合同部活動は必要？

【部員不足のため昨年度大会に出場できなかった部】

6部(昨年度8部)

【今年度から廃部等になった部】

21部(昨年度13部)

【近隣校との合同部活動の必要性】

今後必要である 52%



少子化などに伴い、大会に出場できない部や部が継続できない状況が続いているところもあります。また合同部活動が今後必要と考えている学校も半数以上あり、今年度は11校で実施予定があります。

11 顧問の先生は専門家？

運動部の指導に携わっている顧問の先生は、2,890名います。そのうち運動経験がなかったり自分の専門外の種目を指導したりしている顧問の先生は、約62%(1,805人)います。

12 外部指導者の活用は？

外部指導者は、昨年度は134校(約69%の学校)で706名が活用されています。(一昨年度115校 約60%の学校 637名)外部指導者の活用は増えています。

13 保護者への理解は？

保護者との部活動懇談会を実施している部のある学校 約99%

部活動参観を実施している部がある学校 約88%

部活動通信を出している部がある学校 約90%

学校一斉に部活動懇談会を実施している学校は、約92%あり、活動に対する理解を得るよう各学校では取り組まれています。

また部活動については、多くの学校で「学級・学年だより」「PTA新聞」等で保護者へ活動の紹介・連絡等が行われています。

地域の方との部活動懇談会を実施している学校が約32%あります。

(H15 24% H16 26% H17 28% H18 29%)

14 部活動中に多いケガは？

最も多いのが、捻挫・脱臼(1,070件)、次に骨折(759件)、打撲・肉離れ(366件)、創傷(276件)、突き指・関節損傷(195件)等となっています。ケガの発生率は、全運動部員数の約7.9%(昨年度約7.6%)あります。

件数は昨年度スポーツ振興センターへ申請されたもの

15 総合型地域スポーツクラブと部活動の関係は？

現在、総合型地域スポーツクラブが立ち上げられている中学校区は、25地区あり、そのうち11校で部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携が図ら

れてきています。また立ち上げが進められている中学校区は、約2割近くあり、多くの学校がよりよい総合型地域スポーツクラブとの関係を探っていこうとしています。

16 スポーツ活動運営委員会の立ち上げは？

県教委が推進している中学生期の「スポーツ活動運営委員会」の組織は67校あり、徐々に増えています。組織のメンバーも市町村教委、保護者、外部指導者、体育指導委員、体育協会、スポーツ少年団の代表などが多いです。

考 察

<活動状況>

- ・朝の練習は、約98%の学校で実施しており、通年30～45分が定着している。放課後の練習時間は、大会前はどの学校も時間の延長等工夫し、十分な時間が確保されている。シーズンオフは練習時間30分以内の学校が7割以上あり、活動時間は短い。
- ・休日(ノー部活デー)は、各学校の実情にあった設定の仕方がされており、朝・放課後ともに実施する学校も増えてきている。
- ・土曜日・日曜日については、大会前のみの実施や年間を通じて計画的に実施する学校が多く、実施してもどちらか一日は休みにする傾向にある。
- ・地域のスポーツクラブ(社会体育)として活動している部のある学校が65%ある。

生徒の健康や学校生活への支障がないように、活動計画に配慮している学校が多く見られる。生徒・保護者などの要望をふまえつつ、各学校・地域の実情に応じた運営をしていきたい。

部活動中に起きる傷害が更に少なくなっていくよう最大限の努力が大切である。科学的なトレーニング法、傷害に対する応急処置等の研修等を充実していく必要がある。

<学校・保護者・地域との連携>

- ・部員数の減少などに対する対応や合同部活動を検討する必要性が高まっている。
- ・外部指導者数が増えている。専門外の顧問が多く、外部指導者の確保や関係者の共通理解に立った外部指導者との連携が必要となる。
- ・保護者や地域の方への理解を深めようとしている。

各中学校では、生徒の活動を保障するための課題を抱えている。保護者や地域の方との部活動懇談会の開催などが増えており、生徒の活動に携わるいろいろな立場の方々が一緒に解決の方向を考え、適正な運営を進めていくことが一層望まれる。

また、地域の方との懇談会などを行っている学校の中には、「スポーツ活動運営委員会」が設立されているところもあり、地域・学校・家庭との連携が進んでいる。

